

理事会議事録

日 時：2004年9月21日(火)12:40～15:20

場 所：岩手大学上田キャンパス学生センター棟4階会議室1

出席者：松田，祖父江，若松，杉山，郷田，関井，松原，土橋，土居，田，蜂巢，谷口，栗木，花見

欠席者：佐藤

有効委任状提出者：なし

その他，東條事務長，成相恭二氏が出席した。

議事に先立ち，署名人を選出した。

議 長：松田卓也

署名人：杉山 直，郷田直輝

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年7月3日)の理事会議事録が報告され，原案通り承認された。

2. 開催中の年会について

開催中の年会の講演数(申し込み616件)，ポストデッドライン，企画セッション，記者会見などの基本事項について，土居理事より報告があった。『プラザおでって』で行われた公開講演会について，30名ほどの出席者であったとの報告が田理事よりあった。今回の反省として，早めの準備，広報の徹底などが重要であることを確認し，これまでの経験をマニュアル化して受け継いでいくこととなった。

3. 用語集の使用許諾について(資料2)

科学技術振興機構 (JST) で開発中の新索引システム(有償)に搭載するJST大規模辞書に天文用語集のデータを使用したい，という打診が天文学会に対してあり，天文教材委員会で検討した結果，有償で使用許諾を与えることにした旨，杉山理事より報告があった。

4. 消費税について(資料3)

関井理事より，2000-2001年度に欧文研究報告からの収入が急増したことなどから，2002年度，2003年度に関して消費税納入義務が生じていたことを見落とし，納税していなかったことが判明し，修正申告を行った経緯について説明があった。今後は簡易課税制度を採用することで，納税額を約半額に抑えられるとのことである。

5. その他

(ア) 資料 役員・委員等一覧(資料4)，正会員年齢分布図(資料5)

杉山理事より標記資料の説明があった。

(イ) 衛星設計コンテストについて

田理事より，標記コンテスト実行委員会の報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認(資料6)

杉山理事より，資料に基づき，新会員の入会が承認された。あわせて，退会者の報告があった。

2. 初等・中等の理科教育について(資料7)

前回の評議員会での初等・中等理科教育をより良い方向へ持っていくために天文学会としても取り組むべきであるとの議論，天文教育普及研究会から中央教育審議会会長宛への提言(資料7)，縣氏の記者発表(4割の小学生が天動説を信じている)などを受けて，初等・中等教育の問題点について天文学会としてどのように取り組んでいくのか，検討された。まず縣氏の記者発表に関連して，早急に理事長，副理事長が中心となって声明をまとめることとなった。初等・中等の理科教育全般については，問題の洗い出し，解決へ向けての提言などの実際の取り組みを行う新たな理事長への諮問委員会(仮称：教育懇談会)を設置することとなった。人選については，理事長，副理事長，教育担当理事が中心となって担当する。

3. その他

(ア) 科学振興財団への推薦について(資料8)

元理事長古在氏より，各種の学術賞について日本天文学会の推薦が少ない現状に対して理事会の対応を要望する書面が理事長宛に届いたことが杉山理事より報告された。意見交換の結果，林忠一郎賞選考委員会に学会推薦を依頼することとなった。

(イ) 学術交流費(年会旅費補助)の改訂について(資料9)

天文・天体物理若手の会より，旅費補助制度改定として，旅費補助の申し込みに指導教官 の署名を求めること，旅費補助の半額辞退を導入することの2つが提案され，理事会として原則了承した。

(ウ) 2005世界物理年日本委員会参加について

松田理事長から，標記委員会への日本天文学会の参加について提案があり，認められた。国連で承認されたアインシュタインを記念する国際物理年(2005年)を記念して，物理オリンピックの国内大会に対応する物理チャレンジを行うことなどを中心とした各種イベントの開催，講師派遣などが考えられている。中心となる学会，団体は，日本物理学会，日本応用物理学会，日本天文学会，生物物理学会，物理教育学会などである。次に日本天文学会としてどのように関わっていくべきか意見交換が行われた。その結果，10万円の会費を支出することについては了承するが，それ以外にはできるだけ予算的には切り離したいということになった。日本天文学会が関連するイベントを行っても委員会に予算を請求しない代わりに，新たな支出にも応じないということである。

(エ) 創立100周年記念事業について(資料11)

若松副理事長より，創立100周年記念切手の発行手続きについて，説明があった。今度の年末から年始にかけて文部科学省に希望を出さねばならない。今後も副理事長が担当し手続きを進めていくこととなった。

(オ) 欧文研究報告について(資料10)

欧文研究報告の予算を節約するために，ページ当たりの情報量を増加することが可能かどうか編集委員会で検討を行った結果について，蜂巢編集委員長より報告があった。現在のレターサイズの印刷領域からA4へ変更を行うことで，フォントの大きさを保ったまま1ページ当たり 12% 増加できるとのことである。フォントを小さくすることについては，否定的な意見が大勢を占めた。つぎに，欧文研究報告を半額化，無料化をした場合について，天文学会の負担分の試算が蜂巢委員長より紹介された。ページ数が増加しなければ，半額で281.2万円，無料化で577.2万円の新たな負担が生じる。ただし，ページ数が増加すると，大幅にこの数字が大きくなることが指摘された。今後さらに検討することとなった。

(カ) ペルーの電波望遠鏡計画財政支援(資料12)

会員の Jose Ishitsuka 氏が中心となってペルーに新設する電波望遠鏡の初期運用経費が不足しており，日本国内での募金活動が行われていることが杉山理事より紹介された。天文学会としても是非サポートしていくこととなり，開催中の年会受付付近に募金箱を設置する，tennetで寄付を呼びかける，天文月報への寄付依頼の掲載する，などで対応していくこととなった。

(キ) 次回は2005年1月8日(土)，11時から，国立天文台(三鷹)で開催する。

2004年9月30日

議 長 松田卓也

署名人 郷田直輝

署名人 杉山 直